



‘おいしさをはこび、よろこびを創る’
株式会社 おたべ 様

●創 立:1946年(昭和21年)
●住 所:京都市南区高島町35-2
●T E L:075-681-0201
URL:otabe.co.jp

お 客 様 訪 問 No.32

京都の老舗菓子屋、株式会社おたべ様。社名でもある「おたべ」は、長い歴史を持つ京都伝統の銘菓です。今回、営業部長・松宮恵司様からお話を伺いました。

■おたべ様の特徴を教えてください。

京都には多くのハツ橋会社がありますが、株式会社おたべは最後発の会社です。1966年、生のハツ橋につぶあんを入れた「おたべ」を発売。以来50年近く多くのお客様にご愛顧頂いております。また、現状に甘んじることなく、新しい京土産にもチャレンジしております。

■お客様に対して、どんな点に気を配っていらっしゃいますか？

多方面から多くのお客様が来館されます。皆様に少しでも喜んでお買い物をして頂けるよう、快適な空間の提供に努めています。



▲営業部長の松宮恵司様

■トイレに関して気をつけている点や、工夫している点を教えてください。

食品を取扱っておりますので、清潔感が重要です。基本の清掃は勿論のこと、ブース数の確保、多目的トイレの設置等々、利便性に配慮した居心地の良い空間作りに努めております。

■アメニティを導入した理由と、導入して良かった点を教えてください。

トイレの専門知識を有しているアメニティさんに維持管理を行って頂くことで、お客様に、より満足いただけるトイレ空間の創造に繋がっています。

■最後に、担当(ショップ)に一言お願いします。

担当である寺嶋様には、誠意ある姿勢で分かり易く提案を頂

き、契約後もよく気に掛けて頂いております。今後ともトイレの維持管理サポートをお願い致します。



▲壁面に設置された森林浴消臭器ポンボア



▲清潔感溢れるトイレ、小便器にはビビダリアが。

☆ 私が担当しています! ☆



SHOP

アメニティBee 京都府

寺嶋 健二(てらしま けんじ)さん

ANET License ID : 20-1210-0268

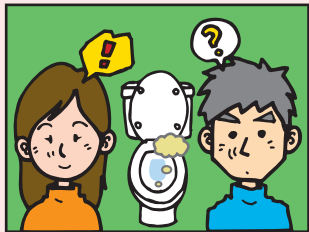
京都の代表のお菓子、ハツ橋の美味しさをはこび続ける「おたべ様」。おもてなしを第一に考える「おたべ様」のトイレの維持管理をさせて頂けることを、とても嬉しく思います。今後も頑張ってまいりますので、よろしくお願致します。

主婦ライター・水仙の水に流せない“廁”論

第3回

「女性は男性よりにおいに敏感」は本当!?

奥さんと彼女に「なんかに合わない?」と聞かれても、男性は「え、そう?」と全然気づかない…。そんな経験はありませんか? ちなみに私も、夫にそう感じる事がよくあります。腐っている食



べ物を「まだいける」と言ったり、子供のおもらしに気づかなかつたり…(^_^;)。特に主婦は、子供の体調が息のにおいで分かりますし、味見をせず香りだけを頼りに料理を作ることできます。だから、なかなか気づかない男性に「なぜ気づかないの?」と不思議に思ってしまうのです。

男女の嗅覚の違いについて調べてみると、(財)九州環境管理協会が行った興味深い論文(*)がありました。男女ほぼ同数で臭

気テストを行ったところ、「同じにおいに対して、男性はにおいを『弱い』と感じ、女性はにおいを『強い』と感じる傾向がある」という明らかな違いが見られたのです。

やっぱり! 女性はにおいに敏感なんですね。

においに敏感ということは、当然トイレを見る目も厳しくなります。特に飲食店では顕著で、ランチや飲み会で「このトイレ、すごくいい!」と女性同士の話

題に出ることもしばしばです。

女性のお客様がターゲットのお店では、まずはそこで働く女性スタッフと一緒にトイレに入っ、率直な意見を聞いてみる。そんなことから始めてはいかがでしょうか。

※(財)九州環境管理協会 後藤祐哉・野田保・藤原浩二「パネルの嗅覚能力からみた嗅覚試験の精度管理の一考察」(社)日本環境測定分析協会「環境と測定技術」第37巻第3号(平成22年3月26日発行)から引用



水仙 美樹

アメニティに約10年間勤務したのち、第二子出産を機に退職。一念発起して、フリーライターの道へ。現在は主婦&ママの視点から地域やアートなどの情報を発信中。トイレウォッチも大好き!

編集後記

「嗅覚は経験によって磨かれる」と、フランスの研究結果があります。私たちトイレ診断士は「トイレのにおい」に関して日々現場で経験を重ねているため、トイレ内においを嗅げば“どんな種類か”“何が原因か”などを、嗅覚のみで大よその見当がつかます。上のコラムのように男性より女性の方が敏感と言われる嗅覚ですが、男性トイレ診断士も日々の訓練を通じて嗅覚を磨いています。(雄撃弾治)

information!

「トイレ診断士達のブログ」と検索してください。
<http://www.toireshindan.com/>

「トイレ診断士」によるブログをご存知ですか。全国のトイレ診断士が、トイレを通して思うこと、感じること、診断の実情などを赤裸々に語っています。お気軽に覗いてみてください。



http://www.amenity-network.net/
Amenity Network

【発行所】株式会社アメニティ
〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町685
TEL:045-371-7676(代) FAX:045-371-7717
Copyright © 2013 AMENITY INC. All rights reserved.
本誌からの無断転載を固く禁じます。

トイレを楽しくする新聞

かわや版

KAWAYABAN

2013 初夏号
Vol.43

特集

便器のロータンク

1日に1度は見かけるほど、ロータンクの存在は周知されていますが、中をのぞいたことがない方も多いはず。今回はそのロータンクの構造と、発生しやすいトラブルをご紹介します。

【ロータンクとは】水洗トイレで洗浄水を供給するために一定量の水を貯めておく水槽です。便器で用を足した後にロータンクのレバーハンドルを回すと、タンク内の水が便器に供給されて洗浄します。



ボールタップ

タンク内の水量を制御する(浮玉の動きに合わせてタンクへの水を出し止める)

ロータンクの構造

手洗い金具

手を洗うための水が出る(ここから出た水は、タンクへ溜まる)

フィルター

タンク内にゴミが入らないようにする(水道管から流れてくるゴミを止める)

止水栓

タンクの手前にある元栓(タンクへの水を出し止めしたり、水量を調整する)

レバーハンドル

洗浄水を流すための操作をする(レバーを回すと先端のチェーンが引っ張られ、フロートバルブが開く)

浮玉

ロータンク内の水位を把握する(浮玉が下がるとタンクに水が流れ、上がると水が止まる)

オーバーフロー管

タンクの外へ水があふれるのを防ぐ(故障でタンクへの水の供給が止まらなくなった時、管の上部から便器へ水を逃がす)

フロートバルブ

便器へ流れる水を止めるフタ(レバーの操作でチェーンが引っ張られるとフタが一旦開き、タンク内の水が便器へ流れる)

※注意: メーカーや品番により、構造や名称が異なることもあります。

発生しやすいトラブルの確認手順

便器へ流れる水が止まらない(タンクのフタを開けて確認)

オーバーフロー管に水が流れている

オーバーフロー管の先端より下に水面がある

浮玉を持ち上げると水が止まる

浮玉を持ち上げても水が止まらない

レバー操作後、レバーが自動的に戻る

レバー操作後、レバーが自動的に戻らない

ボールタップの水位調整部の不具合: 調整が効かない場合は部品交換が必要

フロートバルブの不具合

レバー部の不具合

止水栓が閉まっている

フィルター部のゴミ詰まり

〈注意とお願い〉

★止水栓を無理に回さないでください。(配管が折れて 水が噴き出す恐れもあります)

★部品を無理にいじらないでください。(部品を破損させてしまうことがあります)

★不具合が改善しないときは、アメニティネットワークへ御相談ください。

〈参考資料: TOTO株式会社「トイレまわり器具」メンテナンス〉

文献に学ぶ「トイレ文化」



このコーナーでは、「トイレ文化」に深く注目し、トイレに関する興味深い文献をご紹介します。

第3回

風土の中の便所

厠には美人の神様がおられる

民俗学によると、住居の中には家人と彼らを守る神々が同居しているとされる。座敷の神棚、大黒柱、門口、井戸や竈、そして便所の中にもやはり神様が宿っておられる。便所の神様は、神道では埴山毘賣神と水波能賣神、仏教では烏芻沙摩明王とされるが、民間信仰では単に厠神と呼ばれるだけで、特定の名称をもたない場合が多い。

昔の便所は暗くて何となく気味の悪い場所だったので、人々は便所に厠神の姿を見出して、悪い神や怨霊が居つかないようにと願ったものであった。加えて、農家では排泄物を肥料に活用したことから、厠神に対して、農作物の成長を握る神様という信仰が生まれた。

こうした厠神に対する深い信仰は、今も各地の年中行事に伝えられている。年の暮や小正月になると、便所に注連縄や松飾りをする。そしてお供えをしたり、燈明や繭玉・梅

の花を上げて神様を迎える。さらに「便所の年取り」と称して膳を供え、家族全員が便所の前に敷かれたゴザの上に座り、挨拶の後に膳のおさがりを一口ずつ食べるという所もあるのである。

ところで厠に神様が住んでおられるというだけでも驚きであるが、この神様の多くは女性、それもとびきり美人の神様だと伝えられてきた。地方によっては、便所を新築する時に便壺の下に紅・白粉・鏡・針などを埋める風習が残っているが、こうしておけば美人の神様がやってきて、便所を汚なくする悪神のつけ入る余地がなくなると信じられたからである。

しかし実際には、いくら美人の厠神が宿るといっても、それだけでは便所を清潔に保つことはできない。そこで便所をきれいに掃除しておけば、御利益があるという信仰が生まれることになった。当時、便所の

掃除は女性の仕事であったことから、特に生まれてくる子供に対する母親の願いを叶えるという形を取るものがよく見られる。例えば、妊婦が便所掃除の後で「鼻高くなれ、鼻高くなれ」と唱えて鼻をさすると、鼻の高い子が生まれるとか、生まれたばかりの女の子を連れて「雪隠参り」をすると、えくぼができて愛嬌のある綺麗な娘になるという類のものである。一方、もし便所を汚ないままにしておくと、厠神の罰が当たって、生まれてくる子どもが不幸になるとまでいわれた。かくして世の母親たちは、厠神を怒らせないように、せっせと便所掃除に精を出したものであった。

美人の厠神がもたらす御利益のお陰で、ともすれば億劫になりがちな便所の掃除にはげみがつくというのは、おもしろい話である。

*本稿は主に倉田あつ子「信濃の便所神様と民俗」を参照。



▲烏芻沙摩明王
禅院の 東司の守護神



▲厠神の郷土人形
(秋田八橋人形)



▲厠神の郷土人形
(仙台堤人形)



▲厠神の郷土人形
(金沢人形)



▲厠神の郷土人形
(博多人形)

*厠神 4 点：伊奈ギャラリー「厠まんだらー日本トイレ文化展」展示作品

飛騨の合掌造は便所まで大家族制

飛騨高地の烏帽子岳に源を発し、岐阜県と富山県を北流して日本海に注ぐ庄川。その上流には白川郷や五箇山などの山村が点在し、長い間秘境と呼ばれてきた。

庄川上流は合掌造の故郷としてよく知られている。合掌とは屋根を支える構造に叉首組を使い、屋根裏を広く利用できるように工夫されたもので、その形が両方の掌を合わせたようにみえるところからこの名がある。日本の草屋根民家の構造としてはごく普通のものだが、この地域のもは屋根裏を何層にも分けた大規模なものである。民家形式を分類する際の名称にも用いられている。

この地域は、また大家族制の村としても有名である。戸主と長男のみが妻と同居し、次3男は親元で働きながら妻の生家に通う、妻問婚の形をとっていた。山間に立地するために耕地が少なく、分家ができなかったこと、また副業の養蚕に多くの女手を必要としたので、娘を嫁に出さなかったことなどが、こうした大家族制を生んだ理由である。これを合掌造と短絡させて、屋根裏を何階にも分けて、ちょうどアパートのように大家族が集住していたと誤解する人がいるが、居住部分はあくまでも1階にあり、中2階の1部を寝所とすることはあっても、他の階上部分、すなわち屋根裏部屋は人間の生活空間ではなく、養蚕に使用されていたのである。

それはさておき、白川村の御母衣ダムの近くに建つ旧遠山家住宅(重要文化財・現白川郷民俗館)は、合掌造民家中最大級の規模を誇る。平面規模は桁行11間、梁間6間半で、大きな切妻造茅葺の屋根をもち、内部は4階になっていて、1階の居室は7室もある。遠山家は、大正9(1920)年の国勢調査では家族数31人と報告されており、白川村屈指の大家族制を維持していたが、住宅規模もまさにそれに対応しているといえよう。

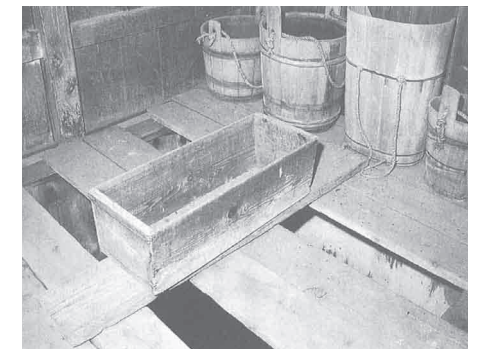
旧遠山家住宅の便所は、主屋の南妻側に下屋形式で取り付く。地元ではヘンチャと呼んでいるが、雪隠の訛ったものであろう。このヘン

チャの柱に文政10(1827)年の墨書があり、当住宅の建築年代がほぼ明らかになるのは、民家研究史上重要なことである。内部に入ると、地面に直径7尺(約2.1m)、深さ5尺(約1.5m)という大桶を埋め、周囲を赤土で固めてある。上には壺板と呼ぶ板を7寸(約20cm)の間隔をあけて何本も渡してあり、そのうちの2本の板の上に両足をおいて用を足す。桶の口の有効面積は畳2畳分もあるから、1度に複数の人が利用することも可能である。

さすがに大家族制の下で工夫されてきた飛騨の合掌造だけあって、便所もそれにふさわしい構造をもっていたことがわかる。



▲旧遠山家住宅



▲旧遠山家住宅ヘンチャ内部。大桶の上に数本の壺板を渡し、この上にまたがって用を足す。中央の木箱に糞べらを入れた。



[出典] 便所のはなし(69～75頁)
発行所：鹿島出版会
著者：谷直樹・遠州敦子
発行：1986年12月25日(第1刷)